

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018年 6月 28日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 慶應義塾大学大学院社会学研究科
心理学専攻 博士課程2年
氏名 島根 大輔



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	30 th APS Annual Convention (Association for Psychological Science) APS 第30回 年次大会
公式ホームページ URL	https://www.psychologicalscience.org/conventions/annual
開催期間	2018年 5月 24日 ~ 2018年 5月 27日
旅行期間	2018年 5月 23日 ~ 2018年 5月 28日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	The Hilton San Francisco Union Square Hotel, San Francisco, CA, USA アメリカ, カリフォルニア州, サンフランシスコ, ヒルトンホテル
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	慶應義塾大学 社会学研究科 心理学専攻 島根大輔 慶應義塾大学 文学部 伊東裕司
発表題目 ※正式名と日本語訳	Negative Correlation between Backward Associative Strength and False Recognition Rates for Pictorial Stimuli in the Deese-Roediger-McDermott Paradigm 画像刺激を用いた DRM パラダイムにおける逆方向連想強度と虚再認率との負の関係性について
補助金額	97370 円 (内訳 航空券の代金として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は, その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、“30th APS Annual Convention (APS 第30回 年次大会)”への参加にあたり、国際会議等参加旅費補助金への申請を採択していただき、誠にありがとうございました。

以下に、当該学会の概要、自身の発表の成果、及び活動内容についてご報告いたします。

【大会の概要】

本大会は、Association for Psychological Science (APS)が毎年開催している国際的な大会である。期間中は、30件もの Invited symposium, 158件の Symposium, 多くの Poster 発表の他に、14件の Workshop などが行われた。参加者は、心理学を基盤にした様々な分野の教授・ポストドクや博士課程学生であり、4日間の合計で4000人以上が集まった。会場では、心理学の領域全般の研究者が参加していたにもかかわらず、領域を超えた議論が活発に行われていた。

【報告者の発表の成果】

報告者は、現地時間で5月26日の13:30~14:20にポスター発表を行った。発表題目は、「Negative Correlation between Backward Associative Strength and False Recognition Rates for Pictorial Stimuli in the Deese-Roediger-McDermott Paradigm (画像刺激を用いた DRM パラダイムにおける逆方向連想強度と虚再認率との負の関係性について)」であった。本発表の内容を以下に記す。

これまで逆方向連想強度と虚再認率には正の相関があるとされてきた。これは、虚再認の生起過程に「連想」が関連することを意味する。これに対して、我々は、用いる刺激を単語ではなく、画像に変えることで、逆方向連想強度と虚再認率の関係が負の相関になることを明らかにした。この結果には、画像を用いることによるモニタリング機能の促進が関係していると考察した。

発表中は、記憶や認知を専門にする研究者と議論しただけでなく、教育や臨床といった他領域の研究者とも積極的に交流した。特に、「メタ認知」を専門にする研究者には、モニタリング機能を取り上げた考察部分の理論的な背景や最近の研究などについての活発な議論を通じて、有益なアドバイスを頂戴した。

【大会参加状況と活動内容】

5月24日から27日までの全日程で大会に出席した。発表の内容は心理学全般であったため、その中から、「司法心理学・認知心理学・教育心理学・神経心理学・知覚心理学」を中心にシンポジウムとポスターを聴講した。シンポジウムでは、その領域を代表する教授が2017-2018にかけて実施した最新の研究を知ることができるため、とても興味深く聴講した。特に、記憶研究の権威の一人である Roediger H. L. が日本・アメリカ・ドイツ・ロシアなどを含めて実施した、「想起」についての大規模な文化間比較の研究はとても興味深く、海外の研究室が実施する実験のダイナミックさを改めて感じた。

ポスター会場では、毎時間、数え切れないほどの発表が行われていた。このような数百人が集まる会場で、一枚のポスターに集まった数人と数分間議論する経験は、本大会のような大規模な会場で得られる利点の一つである。報告者は、本大会におけるこのような経験を通して、国際的なコミュニケーション能力や研究の知見の拡充、建設的に議論する能力などを培ったと考えている。

以上です。

今後は、今回の経験を活かし、自身の研究活動をより良質なものにすべく、精進する所存です。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018年 8月 20日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 川越市男女共同参画審議会委員

氏 名 小林 敦子



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	The International Congress of Applied Psychology 国際応用心理学会
公式ホームページ URL	http://www.icap2018.com/
開催期間	2018年 6月 26日 ~ 2018年 6月 30日
旅行期間	2018年 6月 26日 ~ 2018年 7月 2日 ※旅行期間に変更がありました。(申請時：7月1日まで)
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Canada Montréal Palais des Congrès de Montréal カナダ モントリオール
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	小林敦子 川越市男女共同参画審議会 田中堅一郎 日本大学
発表題目 ※正式名と日本語訳	Training Programs to Prevent Gender Harassment in Japan: Comparison between corporate training programs and seminars using Rakugo ジェンダー・ハラスメント防止研修-企業研修と落語の手法を用いた講座の効果の比較-
補助金額	100,000 円 (内訳 成田-モントリオール往復旅客運賃)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、第 29 回国際応用心理学会 (ICAP2018) の参加にあたり、貴学会の国際会議等参加旅費補助金を頂戴いたしましたことについて、心より感謝申し上げます。以下、活動概要と参加・発表による成果について報告致します。

【学会の概要】

本会議は、International Association of Applied Psychology (IAAP) が 4 年に 1 度開催する応用心理学分野の国際会議であり、世界中から多くの専門家が参加します。今回は、モントルール市 (カナダ) の Palais des Congrès de Montréal において 6 月 26 日から 30 日までの間、開催されました。

【参加による成果】

1. 研究発表について

申請者は、6 月 27 日 2 時～3 時 30 分のポスターセッションにおいて、「Training Programs to Prevent Gender Harassment in Japan: Comparison between corporate training programs and seminars using *Rakugo* (ジェンダー・ハラスメント防止研修—企業研修と落語の手法を用いた講座の効果の比較—)」という題目で発表を行いました。

本発表の内容は、申請者が長年取り組んできた組織の中のジェンダー・ハラスメント防止に関するものでした。この研究では、より効果的な研修方法を模索することを主眼とし、試行的に落語の手法を用いた研修を企画・実施し、通常の講義形式の研修との効果を比較しました。これらの研修は、創作落語口演家や川越市をはじめとする多くの地方自治体の皆さんの協力を得て実現しました。それぞれの研修の実施前後で参加者の理解度を測定・分析したところ、どちらのタイプの研修にも参加者に同じように効果が確認されました。

発表日は大会 2 日目で、ポスターの掲示の位置が好立地だったこともあり、多くの参加者が足を止めてくれました。質問者の関心は、「落語とは何か」「研修の内容」「落語研修の企画の理由」に集中しました。予め準備した落語についての簡単な説明と落語のあらすじの英訳、研修の写真を示してお答えするとともに、この種の研修の集客は困難であるため、研修の企画の工夫は極めて重要であることについて述べました。

2. 他のプログラムに参加して

自身の研究と関連のある、職場いじめや性差別に関連する内容を中心に、シンポジウムやセッションに参加しました。たとえば、南アフリカの学生を対象としたセクシズム (Benevolent sexism・Hostile sexism) の構造に関する研究は大変興味深いものでした。発表者によると、南アフリカは世界で最も進歩的で女性の人権規定が整備された憲法を有しながら、現実的には極めて深刻な性差別が存在しているとの話でした。少し飛躍がありますが、社会の問題解決のためには、法整備だけでは不十分であって、あらゆる学問領域を行き来しながら横断的に解決を試みていく必要があります、そのために心理学の応用領域は重要な立ち位置にあると感じました。

3. 気づいたこと

非英語圏の方々、特に近隣のアジアの国の方とのやり取りにおいて、互いに母国語ではない英語を使用していることを今更ですが新鮮に感じました。第 2 言語としての英語の有用性はますます高まる中で、英語での発信力を培う必要性を痛感した次第です。

研究のテーマの傾向も社会の趨勢によって変化していることを感じました。例えば、8 年前に同学会に参加した際には気が付かなかった LGBT のセッションが目立っていました。

最後に、申請者自身の研究の問題や課題について、応用心理学の国際的な研究の場で、他の研究との相対的關係の中で捉えなおすことができました。改めてここに感謝申し上げます。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018年6月27日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 日本大学文理学部人文科学研究所
研究員

氏 名 福島 由衣



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	30 th Association for Psychological Science Annual Convention (心理科学会第30回大会)
公式ホームページ URL	https://www.psychologicalscience.org/conventions/annual
開催期間	2018年5月24日 ～ 2018年5月27日
旅行期間	2018年5月23日 ～ 2018年5月28日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	United States・San Francisco, Hilton San Francisco Union Square アメリカ合衆国・サン・フランシスコ・ ヒルトン・サン・フランシスコ・ユニオンスクエア
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	福島 由衣 ¹ ・巖島 行雄 ² (日本大学文理学部人文科学研究所 ¹ ・日本大学文理学部 ²)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Non-experts' beliefs about eyewitness, police interview and expert testimony: A survey of college students (非専門家は目撃者とその聴取および専門家証人をどう見ているのか: 大学生を対象とした意識調査)
補助金額	100,000円 (内訳 宿泊代および往復航空運賃の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は 30th Association for Psychological Science Annual Convention (APS) に参加するにあたり、日本心理学会国際会議等参加旅費補助金を賜りまして、日本心理学会と関係者の皆様に感謝申し上げます。以下、APS についてご報告いたします。

【学会概要】

APS は 1988 年に設立され、現在では 80 カ国以上の心理学者 3 万人以上が参加する国際学会である。この学会の特徴の一つは大学院生以上だけでなく学部生にも門戸が開かれていることである。本年は 5 月 24 日から 27 日にかけてアメリカ、サン・フランシスコのヒルトン・サン・フランシスコ・ユニオンスクエアで開催され、4000 名以上の参加者があった。

【活動報告】

3 日目はシンポジウム“Eyewitness Identification: The Value and Challenge of Securing Uncontaminated Confidence Statements”（目撃者識別：汚染のない確信度供述を確保することの価値と挑戦）に参加した。事件の犯人を同定する目撃者識別の正確性・信用性は裁判の判決に影響することもあり、誤った目撃者識別は誤判の原因にもなり得ることが指摘されている。そして、目撃証言の正確性・信用性を評価には、目撃者の持つ確信度が指標にされやすい。このシンポジウムでは、まず確信度と正確性の相関関係を調査した実験が紹介され、目撃者の記憶を汚染しないように配慮された”pristine”（まったく汚れていない）な手法で実験を行った場合には、目撃者の確信度はその識別判断の正確性をかなりの割合で予測することを示した研究が紹介された。次に、目撃者の確信度は聴取を行う捜査官から影響を受けやすいことを示す研究が紹介された。ここでは、現実世界では実験室実験のように pristine な識別手続きはほとんど期待できないため、確信度が必ずしも正確性を予測するわけではないという主張がなされた。その後には、アメリカにおける警察の取り調べについての実態調査が紹介され、上訴裁判所の元裁判官、現役の地方検事補の登壇があった。心理学者だけでなく、元裁判官や現役の検事補がこのような学会で登壇することなど日本の学会ではほとんどないため、アメリカでは立場を超えた自由な議論がなされていることを羨ましく思った。研究者と検察官・弁護士・裁判官といった司法関係者との考え方の溝を埋め、より実際に沿った研究を行うためにも、司法関係者からの情報提供や、彼らとの議論は日本においても必要であろう。

【発表報告】

申請者の発表は最終日最後のポスターセッションであった。発表は、Non-experts' beliefs about eyewitness, police interview and expert testimony: A survey of college students というタイトルで行った。この研究は大学生を対象に、警察の目撃者聴取方法や、裁判で目撃証言について助言を行う専門家証人に対する意識調査を行ったものである。最終日ということもあり、人出は疎らであったが、持参した配布資料はすべて配りを終えることができた。英語で一方向的に説明することはあらかじめ考えておいたことを伝えれば良いのだが、相手の質問にうまく答えられたかどうか非常に不安を覚えた。その他、まったく異なる分野の日本人研究者も話を聞きに来て下さり、司法が抱える問題点について、これまで知らなかったことを教えて頂く機会を得た。とりわけ印象的だったのは、警察の目撃者聴取に問題があることなど考えたこともなかったという反応をもらったことである。同じ分野の研究者でない限り、そもそも問題がどこにあるかということすら共有できていないという現実をどの様に改善していくべきか、これは研究者だけでなく、一般市民にも同じことがいえるため、非常に考えさせられた。「これが原因でこのような問題が起きる、だからこうするべきだ」という主張ばかりを考えてしまいがちだが、そもそも問題があるということを周知するという役割も研究者にはあるだろう。そうであるとすれば、司法とは完全なシステムではなく、心理学者が検討すべき課題を多く抱えた不完全なシステムであると伝えることが出来ただけでも非常に有意義であったと考えている。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018年 9月 24日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 早稲田大学大学院 人間科学研究科
修士課程 2年
氏 名 高橋 まどか



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	ACBS World Conference 16 第16回 国際文脈的行動科学会
公式ホームページ URL	https://contextualscience.org/WC16
開催期間	2018年 7月 24日 ～ 2018年 7月 29日
旅行期間	2018年 7月 24日 ～ 2018年 7月 30日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Montreal, Quebec, Canada・Fairmont The Queen Elizabeth (カナダ・ケベック州モントリオール・フェアモント ザクイーン エリザベス)
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	高橋 まどか ¹⁾ ・前田 わかな ²⁾ ・嶋 大樹 ^{3)・4)} ・井上 和哉 ¹⁾ ・齋藤 順一 ^{1)・4)} ・熊野 宏昭 ⁵⁾ ¹⁾ 早稲田大学大学院人間科学研究科・ ²⁾ 中部ろうさい病院・ ³⁾ 同志社大学心理学部・ ⁴⁾ 日本学術振興会特別研究員・ ⁵⁾ 早稲田大学人間科学学術院
発表題目 ※正式名と日本語訳	An Experimental Study on the Process of Creative Hopelessness: Changes in ACT-Specific Measures Creative Hopelessness 成立プロセスの実験的検討 - ACT 関連尺度の変化からの検討-
補助金額	100,000 円 (内訳 航空券代 160,610 円の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー，および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、国際会議等参加旅費補助金の助成をいただき、ACBS World Conference 16 への参加およびポスター発表をさせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。以下に、発表概要および成果をご報告致します。

1. 学会概要

本大会は、Association for Behavioral Contextual Science (ACBS; 文脈的行動科学会) により毎年開催されている国際大会である。ACBS には、新世代の認知行動療法の代表である Acceptance and Commitment Therapy (ACT) や人間の言語や認知を「行動」としてとらえ、分析していくための機能的な理論である Relational Frame Theory (RFT; 関係フレーム理論) の研究者や実践家が多く参加していた。期間中はシンポジウムやワークショップ、パネルディスカッション、ポスター発表などが行われた。報告者は7月27日のポスターセッションにて“An Experimental Study on the Process of Creative Hopelessness: Changes in ACT-Specific Measures”という題目でポスター発表を行った。また、報告者にとって初めての国際学会の参加・発表であった。

2. 発表内容

ACT の支援では、変化のアジェンダを手放し、体験の回避への動機づけを低減することが重要である。体験の回避は、望まない私的出来事(思考、感情、身体感覚、記憶)の頻度、持続時間、形態、それらを生じさせる文脈を変えようとするための行動に取り組む傾向、と定義されており、体験の回避は、「思考・感情・性格が制御できれば、行動問題が解決する」という考え(変化のアジェンダ)によって生起・維持される。変化のアジェンダを手放すための取り組みとして、Creative Hopelessness (CH) がある。本研究では、CH 成立プロセスを整理し、CH に含まれる要素を明らかにするために、従来から臨床場面で行われている CH の介入を実験的にいき、ACT 関連尺度得点の変化を検討した。分析の結果、介入前後で ACT 関連尺度の有意な変化がみられ、整理した CH 成立プロセスが成立した可能性が示唆された。

本研究で使用した ACT 関連尺度のほとんどは、日本のみで使用されているものであったため、尺度内容に関する質問が多くあった。また、研究のデザインについて、議論を交わすことができた。様々な国の人と議論をすることによって、改めて本研究の今後の展開について考えることができた。また、現在行なっている研究に関する意見もいただくことができ、非常に有意義な経験となった。

3. 学会参加状況

4 日間を通し様々な講演を聴講し、最新の ACT の研究の動向などについて見識を深めることができた。実験室で行われる研究だけではなく、臨床場面で行われている研究についても知見を広げることができ、今後の報告者の進路についても改めて考える良い機会となった。国内外問わず有名な研究者とお話する機会が多くあり、4 日間で関係性を深めることができた。また、懇親会などの講演以外のプログラムにも参加し、文化の違いに触れ、研究以外の交流を深めることもできた。本学会に参加したことにより国内の研究者との関係性を築き、国内学会でのつながりも深めることができた。

本学会の参加により、報告者は自身の研究を見直す良い機会となっただけではなく、今後の研究や臨床活動につながる関係性を築くことができました。今回の貴重な経験を生かし、今後の研究活動および臨床活動をより充実させ、精進して参ります。この度は、誠にありがとうございました。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018年 11月 21日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 関西学院大学大学院文学研究科
総合心理科学専攻 博士課程後期課程
氏 名 小國 龍治



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	the 26th Annual Workshop on Object Perception, Attention, and Memory 第26回対象知覚、注意、記憶ワークショップ
公式ホームページ URL	http://www.opam.net
開催期間	2018年11月15日
旅行期間	2018年11月14日 ～ 2018年11月20日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	New Orleans, LA ニューオーリンズ, ロサンゼルス
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	Ryuji OGUNI ^{1,2} , Masanori KOBAYASHI ^{1,2} and Keiko OTAKE ^{1,2} (¹ Kwansei Gakuin University, ² Center for Applied Psychological Science) 小國龍治 ^{1,2} ・小林正法 ^{1,2} ・大竹恵子 ^{1,2} (¹ 関西学院大学・ ² 応用心理科学研究センター)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Imagination enhances the helping motivation: The role of helping efficacy 想像は援助動機を高める——援助効力感の役割——
補助金額	0円(内訳)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

日本心理学会の国際会議等参加旅費補助金に採択され（旅費補助は、科研費から補助を受けたため辞退）、ニューオーリンズで開催された、the 26th Annual Workshop on Object Perception, Attention, and Memory（以下、OPAM2018とする）に参加した。

学会概要

OPAM2018は、2018年11月15日にニューオーリンズのハイアットリージェンシーニューオーリンズで行われた。OPAM2018は、実験心理学に関する国際会議である59th Annual Meeting Psychonomic Society（以下、Psychonomic Societyとする）の開催初日に開催された。OPAM2018は、Psychonomic Societyと同様に実験心理学に関する国際会議であり、大学院生や博士研究員などの若手研究者が多く参加・発表を行っている。発表形式は、招待講演・口頭発表・ポスター発表がある。

発表内容

本研究では、援助行動の想像が援助効力感と援助動機に及ぼす影響を検討した。また、援助効力感が援助行動の想像の鮮明さと援助動機の関連を媒介しているかについても検討した。本研究には大学生147名が実験に参加した。1要因3水準（想像条件、想起条件、見出し条件）の参加者内計画で実験を行った。本実験は集団で実施し、Gaesser & Schacter (2014)を参考に以下のような手続きを用いた。参加者には、援助を必要とする記述文を提示し、自分自身が援助を行う想像（想像条件）、過去に類似した状況で行った援助行動の想起（想起条件）、その記述文に適した見出しの考案（見出し条件；統制条件）、のいずれかを行うよう求めた。全試行終了後、各記述文を再提示し、援助効力感と援助動機、過去に提示された記述文と同様の状況で援助を行った経験の有無を尋ねた。加えて、想像もしくは想起条件については、想像もしくは想起内容の鮮明さと詳細さについて回答を求めた。本研究の結果、援助行動の想像は、援助効力感や援助動機を高めることが示された。さらに、援助効力感は、援助行動の想像の鮮明さが援助動機に及ぼす影響を媒介していることが示唆された。本研究の結果は、従来示されてきた援助行動の想像の鮮明さと援助動機の関係（e.g., Gaesser et al., 2018）をより詳細なものにし、それらの関係を援助効力感が媒介することを示した。

発表内容へのコメント

本発表は、2018年11月15日12時15分から13時15分の1時間行われた。発表時には、手続きについての質問や助言をいただき、今後の研究計画を考える上で有益な議論を行うことができた。また、援助行動の想像の鮮明さに関するコメントもいただき、今後は想像の鮮明さの内容についても詳細に検討することが有用であると感じた。

その他

OPAM2018への参加に加えて、Psychonomic Societyにも参加し、私自身の研究テーマ（未来に関する思考研究）と非常に関連が強い研究者たち（例えば、Caspian SawczakやRuben Van Genugten）の研究成果も聞くことができ、今後の研究へのアイデアや可能性を強く感じる事ができた。

- 1 この報告書は帰国後2ヶ月以内に提出して下さい。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018年 12月 21日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 広島大学教育学研究科 博士課程後期1年

氏名 小林 亮太



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	The 6th Hong Kong International Conference on Education, Psychology and Society 香港教育心理国際学会
公式ホームページ URL	http://hkiceps.org/site/page.aspx?pid=901&sid=6055&lang=en
開催期間	2018年12月18日 ~ 2018年12月20日
旅行期間	2018年12月16日 ~ 2018年12月20日 (※旅行期間を2018年12月17日から変更しております)
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	香港, 帝京酒店 (Hong Kong, Royal Plaza Hotel)
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	小林亮太・宮谷真人・中尾敬 (広島大学)
発表題目 ※正式名と日本語訳	The Relationship Between Self-Control and Emotion Regulation Strategies: Cognitive Reappraisal, Distraction, and Expressive Suppression 感情制御とセルフコントロールの関連 — 認知的再評価, 気晴らし, 表出抑制の観点から — (※題目を申請時のものから変更しております)
補助金額	10万円 (内訳 飛行機代や学会参加費, 宿泊費の一部)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は, その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、日本心理学会より国際会議等参加旅費補助金制度から助成いただき、The 6th Hong Kong International Conference on Education, Psychology and Society (HKICEPS) への参加することができました。心より感謝申し上げます。学会での研究発表やその成果について報告させていただきます。

【大会概要】

2018年12月18日から12月20日に、香港にて開催されたThe 6th Hong Kong International Conference on Education, Psychology and Societyに参加した。心理学をはじめ、教育学や社会学の専門家も参加していた。規模の大きな学会ではなかったものの、その分穏やかな雰囲気の中で学会が進行している印象を受けた。香港で開催されていることもあり、ヨーロッパ圏からの参加者だけでなく、アジア圏の発表者も多く見受けられた。

【成果】

1. ポスター発表

報告者は、12月18日の13:30～14:30のセッションにて、“The Relationship Between Self-Control and Emotion Regulation Strategies: Cognitive Reappraisal, Distraction, and Expressive Suppression”という題目でポスター発表を行った。この発表の中で、ネガティブな感情を低減したり、ポジティブな感情を増加させること、すなわち感情制御とセルフコントロールの間に正の関連があることを報告した。今回の発表では、感情制御の複数の方略に焦点を当てていたものの、その方略間の差異が不明瞭であるという指摘があった。この点に関しては、今後の発表や論文文化の際に十分注意していきたい。また、教育学を専門とする研究者とは、全般的にみて感情制御ができていくかどうかではなく、方略ごとに捉えていく必要性について議論を行った。教育場面などへの応用を想定しているのであれば、具体的な介入手続きを考案できるように、方略ごとに考える必要があるという点で話が落ち着いた。一方で、スクリーニングなど考えるのであれば、むしろ全般的にみて感情制御ができていくかどうかを検討することが有用ではないかという意見もいただいた。このように今後研究を進めるにあたって、有益な意見をいただくことができた。しかし、英語力不足もあり、伝えたいことが伝えられなかったり、相手の意見を上手く理解できないということもあった。これらは今後の課題として取り組んでいきたい。

2. 研究発表を聞いて

教育学や社会学に関する発表もあり、普段はあまり触れない研究を知ることのできるよい機会であったと考えている。また、アフリカの教育に関する研究発表を聞く機会もあり、心理学では西洋文化と東洋文化を比較することはあるものの、それだけでは不十分であり、アフリカなどの異なる文化圏にも目を向ける必要があると感じた。こうした普段とは違う視点が得られるのも、今回参加したHKICEPSの強みであると思われる。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018年 9月 23日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 明星大学大学院 人文学研究科
心理学専攻 博士後期課程 学位取得候補生

氏 名 古谷 大樹



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	Association for Contextual Behavioral Science World Conference 16 文脈的行動科学学会 第16回世界大会
公式ホームページ URL	https://contextualscience.org/
開催期間	2018年 7月 24日 ~ 2018年 7月 29日
旅行期間	2018年 7月 24日 ~ 2018年 7月 28日 (申請書では25日から参加の予定でしたが、発表時間の関係から1日早く現地に行き、その分1日早く帰国致しました。)
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Canada, Québec, Montréal, Fairmont The Queen Elizabeth カナダ、ケベック州、モントリオール、フェアモント ザ クイーン エリザベス
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	古谷 大樹 (明星大学大学院人文学研究科心理学専攻博士後期課程) 刎田 文記 (株式会社スタートライン障がい者雇用研究室室長) 竹内 康二 (明星大学人文学部心理学科)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Investigation of the Relationship between the Cognition of the Concepts of "Engage" and "Escape" to the Evaluation of Work 「取り組む」と「逃げる」という概念に対する認知と労働に対する価値との関連性の検証
補助金額	100,000円 (内訳 飛行機代及び宿泊費 205,542円の一部として使わせていただきました。)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は国際会議に参加する際の費用を助成してくださり心より感謝申し上げます。国際会議では大変有意義な時間を過ごすことができました。以下にて今回の会議での活動等をご報告させていただきます。

【活動内容】

Association for Contextual Behavioral Science World Conference 16 はカナダのモントリオールで 2018 年 7 月 24 日～29 日の 6 日間に渡って開催された。申請者は 7 月 25 日の 19 時 30 分～20 時 30 分の 1 時間ポスター発表を行った。本大会の中で 1 番最初のポスター発表であったおかげか、発表の会場には多くの方が参加しており申請者のところにも 10 名以上の方が訪れた。また大会中は、自身の研究と関連する分野や興味のある分野のシンポジウムを中心に参加した。

【成果】

自身の研究内容

申請者の研究発表は「Investigation of the Relationship between the Cognition of the Concepts of "Engage" and "Escape" to the Evaluation of Work」という題目であり、労働者を対象に「取り組む」と「逃げる」という概念に対する潜在的な認知と労働に対する価値観との関連性を検証する内容であった。その結果、自分の成長や所属組織への貢献という価値観を重視する人ほど、取り組むという概念を肯定的に認知する傾向が示された。その一方で、所属組織への貢献という価値観を重視する人ほど、逃げるという概念を否定的に認知しない傾向も示された。この結果から、所属組織への貢献に価値観を持っている人は、取り組みたいが逃げるときには逃げたいという解離の状態である可能性が考えられ、所属組織への貢献という価値観が過剰になると、精神的な疲労感など職業生活での不適応に繋がる可能性があることを示唆した。しかしながら本研究は、参加者の少なさや、1 企業の社員を対象にしたことなど、改善すべき点がいくつか挙げられる内容であった。

発表では、数 10 名ほどの参加者と意見を交換することができた。日本人の方も数名足を運んでくれた。訪れてくれた 1 人 1 人の参加者に発表の内容を詳しく説明し、色々のご指摘をいただいた。その中でも、申請者も改善すべき点として挙げていた参加者を増やすことなどの意見があった。また、会社内での実際の行動を指標とすることが必要とのご指摘もいただいた。

その他の発表・活動

自身の研究領域と被るものや興味のある研究の発表やシンポジウムを中心に参加した。具体的には、潜在的認知を測定するアセスメントツール Implicit Relational Assessment Procedure (IRAP) を用いた研究や、行動分析の理論から言語や認知を説明する Relational Frame Theory (RFT) と関連するシンポジウムや発表を中心に参加した。RFT の研究では、発達障害児の視点取りや概念形成などの日常生活で活用できるスキルの獲得を目的とする研究が多く見受けられた。

全体的に今回の学会を通して様々な方とディスカッションを行えたり、多数の研究を知ることができたりと大変勉強になった。また、各国の研究の進行の速さを知ることによって、自身の研究を進めることに対して意欲が湧き、よい刺激を受けることができた。今回の経験を活かし、今後の研究活動にも尽力していきたい。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018 年 8 月 27 日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 お茶の水女子大学大学院文化創成科学研究科
人間発達科学専攻 発達臨床心理学コース博士課程前期 2 年

氏 名 庄司悠花



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

<p>会議名称 ※正式名称および 日本語訳</p>	<p>49th International Annual Meeting of Society for Psychotherapy Research (第 49 回サイコセラピー研究学会)</p>
<p>公式ホームページ URL</p>	<p>http://www.psychotherapyresearch.org/</p>
<p>開催期間</p>	<p>2018 年 6 月 27 日 ~ 2018 年 7 月 1 日</p>
<p>旅行期間</p>	<p>2018 年 6 月 25 日 ~ 2018 年 7 月 5 日</p>
<p>開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記</p>	<p>Vrije Universiteit De Boelelaan 1105 Amsterdam 1081 HV Netherlands オランダ, アムステルダム, アムステルダム自由大学</p>
<p>発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記</p>	<p>新垣有貴 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 発達臨床心理学 コース博士課程前期 2 年 庄司悠花 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 発達臨床心理学 コース 2 年 山岸朱里 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 発達臨床心理学 コース博士課程前期 2 年 片平侑理子 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 発達臨床心理 学コース博士課程前期 2 年 古家実可子 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 発達臨床心理 学コース博士課程前期 2 年 城詩織 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 発達臨床心理学コ ース博士課程前期 2 年 小笠原未鮎 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 日本語日本 文学コース博士課程後期 1 年 永田奈津季 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 発達臨床心理 学コース博士課程前期 2 年 山崎和佳子 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 発達臨床心理 学コース博士課程後期 2 年 岩壁茂 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系 准教授</p>

<p>発表題目 ※正式名と日本語訳</p>	<p>When therapists put themselves before their clients: A qualitative study on therapist's experience and what they learn from it 心理臨床家・セラピストが自分を優先するとき：セラピストの経験とそこから得るものについての質的研究</p>
<p>補助金額</p>	<p>82010 円（内訳 渡航費)</p>

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー，および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、49th International Annual Meeting of Society for Psychotherapy Research への参加にあたり、国際会議等参加補助金に採択していただきましたこと、心より厚くお礼申し上げます。以下、参加学会についてご報告致します。

【活動内容】

SPR は Society for Psychotherapy Research により毎年開催されており、40 カ国以上の人々によって、心理療法に関する様々な研究報告がなされています。今年は、2018 年 6 月 27 日から 30 日にかけて、アムステルダム(オランダ)のアムステルダム自由大学にて開催されました。開催期間中、様々な発表を見て回る機会に恵まれました。特に印象に残った研究発表は、乳がん患者へのヨガを用いた心理療法についてのものでした。会場で実際にヨガや瞑想を行い、ディスカッションではそれぞれの立場から多くの興味深い意見が出ました。学会期間中は常に軽食や飲み物が用意されており、会員同士のより積極的なコミュニケーションを促進する意図が感じられました。お酒を飲みながら議論をする様子が見られ、このように懇親会ではなく会場で学会員が飲酒している様子が非常に印象的でした。

【報告者の研究発表】

学会期間中、報告者の発表は四日目でした。報告者は、心理療法において臨床家が自分を優先させてしまう状況とその結果に焦点を当てた研究についてのポスター発表を行いました。自分を優先しやすい状況としては、自分自身のために優先する内的要因と組織を守るための外的要因によるものがあり、内的要因により自分を優先した臨床家はより今後の自身のセラピーにつながる反省や気づきを得やすいということを主に発表しましたが、聴衆は、臨床家が外的要因を優先させることに日本文化が影響しているかもしれないという部分により興味を持った様子でした。

【参加により得られた成果】

上記の研究発表において、聴衆からの質問から多くのコメントや質問を頂き、とても活発な発表をすることができました。心理療法研究の大きな流れの中で、報告者の研究がどのような位置づけにあるのかということを確認することができたように思います。また、報告者にとっては初めての英語での国際学会発表であったため、準備から発表までの一連の流れを体験することができ、大変貴重な機会となりました。

本学会では、自身の発表以外にもたくさんの研究発表やディスカッションに参加することが出来ました。同じ領域の海外の研究者がどのようなことに興味を持ち、どのように研究に取り組んでいるのかを知ることができ、とても良い刺激となりました。このような国際学会では、聴衆は文化差に非常に興味を持って聞いているように感じ、そのような質問に十分に答えられるよう、まずは日本文化を熟知することの重要性を痛感しました。聴衆が予測していた部分とは全く違うところに興味を持つこともあるという貴重な体験となり、今後はあらゆる視点から幅広く質問やコメントに答えられるようにしていきたいと思いました。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018年 6月 18日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 名古屋大学情報学研究科
博士課程前期課程 2年

氏 名 小川佳純



□
下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	International Meeting of the PSYCHONOMIC SOCIETY
公式ホームページ URL	https://www.psychonomic.org/page/18AMS
開催期間	2018年 5月 10日 ~ 2018年 5月 12日
旅行期間	2018年 5月 8日 ~ 2018年 5月 14日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Amsterdam, The Netherlands BEURS VAN BERLAGE オランダ アムステルダム ブールス・ファン・ベルラーヘ
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	小川佳純 (名古屋大学) 北神慎司 (名古屋大学)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Do monetary rewards improve unfamiliar face matching accuracy? 金銭的報酬は未知顔の識別能力を上げるか
補助金額	100000 円 (内訳 航空券代として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、公益社団法人日本心理学会より国際会議等参加旅費補助金制度による助成を受け、International Meeting of the PSYCHONOMIC SOCIETYに参加し、ポスター発表を行いました。本学会参加に対して補助金を支給してくださいました日本心理学会および関係者の皆さまに感謝し、活動内容とその成果について以下のようにご報告いたします。

1. 活動内容

International Meeting of the PSYCHONOMIC SOCIETYは、2018年5月10日～5月12日にかけてオランダ・アムステルダム・BEURS VAN BERLAGEにて開催された。本学会は、実験心理学、および関連科学の基礎的研究を発表する国際学会であり、今回は主に認知心理学を専門とした、各国の様々な研究者が参加した。報告者らは、5月11日のPoster sessionにて”Do monetary rewards improve unfamiliar face matching accuracy?”という題目でポスター発表を行った。

2. 自身の研究発表について

報告者らの発表内容は、日常社会でスマートフォンや、コンサート会場の本人確認として話題となっている顔認証に着目して、未知顔の識別の困難さを改善させることを題材として扱った研究を発表した。日常生活においていたるところで顔認証が用いられている。しかし高額な機械を取り入れることの困難さや、そもそも人間は見たこともない未知顔を同定することが困難であるという先行研究が多く存在する。そこで様々な人間の認知機能を向上させてきた動機付けに着目することで、人間の未知顔に対する識別能力を上げられるのではないかと仮定して、金銭的報酬を用いて識別課題を行った。結果は成績向上とまでは行かなかったが、動機付けがある条件で反応時間が増加しており、より慎重になって考えていたという結果を発表した。

本学会では、報告者らのポスターの掲示時間が昼休憩と重なっていたためか、発表への訪問者は予測より少なめであった。そのため、意見交換や議論は期待していたほどはできなかったが、そのなかでも文化差研究を専門とする訪問者に、異なった角度から意見を述べていただき本発表内容についてより一層の深い気づきが得られた。しかし、報告者は初めての海外発表であったため、訪問者からの質問内容は聞き取れても、それをうまく言葉にして答えることが出来ず、言葉の壁に悩んだことが悔やまれる。しかし、言葉の壁があつたとしても誠意ある態度で精一杯の回答をする他の発表者の姿も見られた。報告者もそのような対応を見習って身振りも加えて議論しようと努力し、精一杯の対応をした。本学会では英会話のコミュニケーションが思っている以上に出来ないということを、身をもって知ることが出来た点が良かったと感じる。そのため、今後より一層英会話能力の習得や、専門知識に関する深い理解のために努力しようという決意を改めて持った。

3. 学会参加状況

学会における発表は一つの分野だけに限定していたわけではなく注意や、記憶など、認知心理学における幅広い分野の発表を聞くことが出来た。そのため、発表をする研究者は分からない人でもなるべく負担のないような説明をしていて、海外学会に慣れていない報告者でも内容を把握しやすかった。しかし、語学に関する面で理解が遅れてしまうことが多々あり、自身の語学力を上げる必要性を多分に感じた。また発表会場の雰囲気は終始なごやかであり、質疑応答では質問者に対して発表者がユーモアかつ簡潔な回答を行っており、発表方法という点でも参考になった。

本学会の参加により、報告者は貴重な経験をすることができ、また今後の研究発展のための目標やそのために必要な能力を見出すことが出来た。今回得た貴重な経験をもとに、今後も積極的かつ有益な研究活動を行っていききたい。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2019年 1月 13日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 東京大学大学院人文社会系研究科
社会文化研究専攻博士課程
氏 名 鈴木啓太



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	ICAP(International Congress of Applied Psychology: 国際応用心理学会)
公式ホームページ URL	http://www.icap2018.com/
開催期間	2018年 6月 26日 ~ 2018年 6月 30日
旅行期間	2018年 6月 25日 ~ 2018年 7月 1日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Palais de congrès de Montréal, Montreal, Canada モントリオール国際会議場、モントリオール、カナダ
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	鈴木啓太・村本由紀子 (東京大学人文社会系研究科)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Title: The effects of implicit theories and task-switching cost on individuals' performance of a task タイトル: 暗黙理論と課題変更コストが個人の課題遂行に与える影響
補助金額	100,000円 (内訳 航空券代の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、国際会議等参加旅費補助に採択いただき、国際会議への参加及び発表の機会をいただきましたことに、関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。以下、活動内容並びにその成果についてご報告させていただきます。

【活動内容】

2018年6月26日～30日にモンリオールの国際会議場にて開催された国際応用心理学会(ICAP: International Congress of Applied Psychology)に参加した。報告者は6月29日14:00～15:30のセッションにて「暗黙理論と課題変更コストが個人の課題遂行に与える影響」というタイトルで発表を行った。その他、同様もしくは近いテーマを扱った研究のシンポジウムやポスターセッションに参加した。

【成果】

1. ポスター発表

報告者が発表した研究は、能力の可変性に関する信念として知られる暗黙理論が、課題が複数存在するときどのように課題を選択するかという方略に与える影響について、とりわけ課題を変更する際に生じるコストに着目して検討したものであった。

ポスターセッションの時間は90分だったが、その間に国内外の先生方に研究内容や発表に対するコメントを頂いた。研究内容に対しては、暗黙理論という個人要因に留まりがちな研究テーマを、課題変更コストという外的な社会環境要因との相互作用の中で論じることの面白さを多く指摘していただいた。一方で、今回は実験手法としてシナリオ実験に留まっており、結果の妥当性を担保するような展開も今後必要であるという指摘もいただいた。ディスカッションの中で、今後実施しようと考えている実験や調査の案や研究全体の展開について話す機会もあり、その中でいただいたコメントは現在実施中の研究の中にアイデアとして盛り込まれており、報告者としては非常に貴重な機会を頂けたと考えている。また、発表自体にもいくつかコメントを頂いた。構成を褒めて頂いた一方で、こちらの統計的な知識や英語表現の曖昧さを指摘されることもあった。今後も国外でも学会発表は続けていきたいので、これらの点は改善したいと考えている。このように、研究内容や発表に関して多くのコメントを頂き、そのことを通じて今後の課題や展望が見えてきたことは、報告者にとって大きな成果であった。

2. 学会全体を通じて

上記のような発表者として成果だけでなく、参加者としての成果も大きかったと考えている。それはいくつかの理由によるものだが、一つは研究者間のネットワークが広がったことである。今回、海外で報告者と同様のテーマを扱っている方や、国内で同様のテーマを扱っているが、近年国内の学会に参加する機会が減っているという方とディスカッションをする機会があった。こういった機会は国内の学会に参加するだけでは得られないので、本学会に参加したことの一つの大きな意義であったと考えている。もう一つは、応用心理の領域に多く触れたことである。報告者は普段は応用心理の領域に触れることはあまりないが、今回そういった研究に多く触れることができた。研究における学術的な意義も重要だが、改めて社会的な意義もそれと同じくらい重要であるということ再認識することができた。こういったことも、普段自分の近い領域の学会に参加するだけでは得られない貴重な成果であったと考えている。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018年 8月 23日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 名古屋大学大学院教育発達科学研究科
博士後期課程 2年

氏 名 赤松大輔



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	29th International Congress of Applied Psychology (第29回 国際応用心理学会)
公式ホームページ URL	http://icap2018.com/
開催期間	2018年 6月 25日 ~ 2018年 6月 30日
旅行期間	2018年 6月 25日 ~ 2018年 6月 29日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Canada, Montreal, the Palais de congrès de Montréal カナダ, モントリオール, モントリオール国際会議場
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	赤松大輔 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科) 中谷素之 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Motivational regulation strategies in English learning of Japanese EFL undergraduates (日本人外国語英語学習者における動機づけ調整方略)
補助金額	10万円(内訳 航空機代 125840円の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、29th International Congress of Applied Psychology への参加にあたり、国際会議参加旅費補助金の申請をご採択いただきましたこと、心より厚く御礼申し上げます。以下に、参加しました学会についてご報告いたします。

(1) 会議概要と参加状況

報告者が参加した International Congress of Applied Psychology は、4年に1度開催される応用心理学に関する国際会議である。対象となる領域は、教育心理学領域や臨床心理学領域をはじめ、産業・組織心理学領域や環境心理学領域など多岐にわたる。個人発表の形式は口頭発表、ポスター発表、ラウンドテーブルから構成される。開催期間は、2018年6月26日から30日までの5日間であった。

報告者は、滞在期間の26日から28日にかけて学会に参加した。講演とポスター発表を中心に参加し、北米では従来の動機づけ理論を基盤として、教師や教員養成大学生など多様な対象者を取り上げた研究が広がりつつあることを知った。多くのポスター発表者と議論を交わし、海外の研究動向に直に触れる貴重な機会となった。

(2) 自身の研究発表について

6月26日の14:30～16:00にポスター発表を行った。発表題目は、「Motivational regulation strategies in English learning of Japanese EFL undergraduates (邦訳：外国語として英語を学ぶ日本人大学生における動機づけ調整方略)」であった。

外国語として英語を学ぶ環境であるわが国では、日常生活における英語への接触は皆無に等しいため、英語に対する興味が喚起される場面はきわめて限定的であり、英語学習者の動機づけは容易に減退してしまう。そのなかで学習者自身が意識的に自身の動機づけに働きかけ、動機づけを喚起・維持する方略である動機づけ調整方略は重要な意味をもつ。また、動機づけ調整方略は自己調整学習研究の主要概念であるが、自己調整学習研究は英語圏の国々を中心として展開されている。そのため、外国語英語環境であるわが国の英語学習者の動機づけ調整の様相を明らかにすることは、国際学会での報告に値する希少な試みであると考え、本研究課題を選択した。

本研究では、大学生の動機づけ調整方略に関する従来の尺度に加えて、メディアや英語話者との接触を通じた英語使用によって英語学習への興味を高める動機づけ調整方略を想定し、学習行動との関連を検討した。その結果、英語使用に基づく動機づけ調整方略が他の方略よりも学習行動を強く規定することが示された。

報告者のポスター発表を通して、多くの参加者と外国語学習に関する議論を交わし、自身の研究に対する視野を広げることができた。大学生の外国語学習を専門とする研究者、認知心理学を専門とする研究者、動機づけを専門とする研究者をはじめ、多様な学問的背景をもつ方々から、貴重なご助言をいただいた。また、本発表では外国語学習者の動機づけを中心に取り上げたが、英語習得やそれに対する動機づけの維持は、英語以外の言語を母語とする研究者にとって欠かせない要素で、多くの研究者の関心を集めるものであった。参加者自身の学習経験からも、英語使用を通じた動機づけ調整方略の重要性に対する支持が得られ、研究論文として成立させるに向けて具体的な議論がなされた。そのような意味でも、本研究課題は、多様な文化的背景をもつ研究者が参加する国際学会で発表する意義のある研究であったと考えられる。

以上のように、本会議に参加したことは自身の研究について振り返る貴重な機会となりました。また、英語能力をはじめとした研究者としての資質向上が必要であることを再認識しました。この経験を活かすべく、今後の研究活動に努めてまいりたいと考えております。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018年 12月 28日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 金沢大学大学院人間社会環境研究科
博士後期課程 2年

氏 名 西川 未来汰



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	19th Biennial Scientific Meeting of The International Society for Comparative Psychology (第19回国際比較学会)
公式ホームページ URL	https://iscp2018.weebly.com/
開催期間	2018年 10月 29日 ~ 2018年 10月 31日
旅行期間	2018年 10月 28日 ~ 2018年 11月 2日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	University of California, Los Angeles, USA カリフォルニア大学, ロサンゼルス, アメリカ
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	西川未来汰・谷内通 金沢大学
発表題目 ※正式名と日本語訳	Congruity of spatial positions of two foods as a determinant of anticipatory contrast effect in rats 2つの餌の空間位置の不一致性がラットの予期的対比効果の規定因となる
補助金額	100,000円 (内訳 航空券の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、申請者の 19th Biennial Scientific Meeting of The International Society for Comparative Psychology への参加および発表に対し、日本心理学会国際会議等参加旅費補助金を頂き、深く御礼申し上げます。以下に参加しました学会の報告をさせていただきます。

(1) 学会概要

申請者が参加した国際比較学会 (ISCP) は 2 年に 1 度開催されており、今回は 2018 年 10 月 29 日から 10 月 31 日の日程で行われました。学会の会場は、アメリカのロサンゼルスにあるカリフォルニア大学 (UCLA) 内でした。3 日間に渡り、複数のシンポジウムやポスター発表が行われ、幅広い分野での最新の知見を得ることができました。また、午前と午後には 30 分の coffee break の時間が設けられており、著名な先生方と直接お話ができる機会が得られるなど、非常に貴重な経験をすることができました。

(2) 申請者の発表

今回は、10 月 31 日 (水) の 13:30 - 15:00 に “Congruity of spatial positions of two foods as a determinant of anticipatory contrast effect in rats (2 つの餌の空間位置の不一致性がラットの予期的対比効果の規定因となる)” という題目でポスター発表を行ってきました。発表内容は、ラットにおける予期的対比効果という現象が、安定して生じるための規定因を検討し、予期的対比効果と好みの条件づけ効果という、相反する効果が同時に生じていることを示した。文脈手がかりと飲み口の空間位置手がかりにより、好みの条件づけにおけるスクロース US の CS としてのサッカリンの隠ぺいを生じさせることで、予期的対比効果を安定して生じさせられる可能性を示唆する。

申請者の発表は大会の最終日ではありましたが、想定よりも多くの方が足を運んでくださり、いくつかの助言を頂きました。また、同時帯のポスター発表において川崎先生が同じ予期的対比効果に関する発表を行っており、発表に足を運んでくださった方々を含め、非常に有意義な議論を行うことができました。今回の発表内容は基礎的な内容であったにもかかわらず、今後の発展や応用に対して多くの意見を頂きました。これからの研究に反映させ、より素晴らしいものにするため精進していかなくてはと、改めて強く感じました。

(3) 他の研究者の発表研究

3 日間を通して約 30 件のオーラルセッションが行われ、そのほとんどを聞くことができました。様々な種における検討や手法を学ぶことができ、自身の研究に活かすような知識、知見を得ることができました。特に自身の研究テーマであるラットとは異なる、鳥類や蜂あるいはマナティなどの最先端の研究はとて興味深いものでした。

また、coffee break や休憩時間などにおける著名な先生方との意見交換は非常に有意義なものとなりました。さらに、最終日には UCLA の Aaron 先生の研究室を訪問させていただき、内部を案内してもらおうという貴重な体験をさせていただきました。研究室や実験室、あるいは飼育室の設備なども見学させていただき、学ぶものが非常に多かったです。

以上のように、本大会に参加したことで、今後の研究につながる貴重な助言や体験をさせていただきました。今回の経験を活かし、英語の勉強および今後の研究活動をさらに励んでいきたいと考えております。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018年 12月 27日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 金沢大学大学院人間社会環境研究科
人間社会環境学専攻 博士後期課程 2年
氏 名 田中 千晶



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	19th Biennial Scientific Meeting of The International Society for Comparative Psychology 国際比較学会
公式ホームページ URL	http://www.comparativepsychology.org/
開催期間	2018年10月29日 ～ 2018年10月31日
旅行期間	2018年10月28日 ～ 2018年11月2日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	University of California, Los Angeles, USA カリフォルニア大学, ロサンゼルス, アメリカ
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	田中千晶, 金沢大学大学院
発表題目 ※正式名と日本語訳	The serial position effect and directed forgetting in rats ラットにおける系列位置効果と指示忘却
補助金額	100,000円 (内訳 往復航空券代金 156,130円の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、申請者が 19th Biennial Scientific Meeting of The International Society for Comparative Psychology に参加するにあたり、日本心理学会の国際会議等参加旅費補助金を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げますとともに、以下に報告をいたします。

【大会概要】

19th Biennial Scientific Meeting of The International Society for Comparative Psychology は、2018年10月29日から10月31日まで、アメリカ合衆国のカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) にて開催された。大会は2年に1回の開催であり、申請者はオーストラリアで開催された18回大会に続けて2回目の参加であった。主にヒト以外の動物を対象とした比較心理学的研究についての口頭発表やポスター発表、シンポジウムが行われた。

【自身の発表について】

大会3日目の10月31日に、“The serial position effect and directed forgetting in rats” という表題でポスター発表を行った。ラットを対象に8方向放射状迷路を使用した系列位置課題を行った。その際、迷路のアーム先端に後のテストの提示を信号する「記銘手がかり」を2か所、後のテストの不在を信号する「忘却手がかり」を6か所に設置した。記銘手がかりを設置したアームに対するテストでは、能動的なリハーサルと関連する初頭効果と受動的な保持と関連する新近効果の両方が認められる一方で、忘却手がかりを設置したアームに対するテストでは、新近効果のみが認められると予測した。しかし予測に反して、記銘手がかりを設置したアームのテストにおいて、中盤の項目の成績が低下しなかったため、初頭効果と新近効果が認められなかった。このことは、ラットが指示手がかりを活用し、記銘手がかりを設置したアームを積極的にリハーサルしたことを示唆すると考えられる。以上の内容についてポスター形式で発表した。他の参加者から、今後の研究に資する様々な意見や指摘をいただいた。

【大会に参加して】

申請者は大会が開催された3日間、すべてのセッションに参加した。他の参加者の口頭発表を聞いたり、ポスター発表で意見を交換しあったり、コーヒープレイクやバンケットの間に交流したりと、有意義な時間を過ごすことができた。申請者は普段、ラットを対象に研究を行っているため、自分で論文等を探す場合などを含め、ラットを対象とした研究や、記憶の実験が数多く行われているハトについて接することが多い。しかし、この大会では所属機関で飼育していないミツバチやマナティなど、様々な動物を対象とした研究が報告されていた。あまり接する機会のない動物の認知や行動について様々な報告がなされており、大変興味深かった。

加えて、主催者の好意により、UCLAの心理学ラボを見学させていただくことができた。およそ10階建ての建物のすべてが心理学の研究室であり、教員数も所属機関と比較してとても多く、圧倒されるばかりであった。動物を対象とした実験装置や実験室のいくつかを見学させていただくことができた。見たこともない実験装置が多く、とても興味深く感じるとともに、動物心理学のさらなる発展の可能性を実感した。

また、コーヒープレイクやバンケットなどにおいて多くの研究者と交流する機会があった。自分の研究についての話をはじめ、様々な話題で盛り上がった。大会には申請者が行っている研究の参考にした論文の著者や、教科書に載っている著名な研究者も参加しており、彼らと交流することができたことは大変喜ばしく、夢のような時間であった。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2018年 12月 19日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 広島大学大学院教育学研究科
教育学習科学専攻心理学分野 博士課程後期
氏名 柏原 志保



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	Psychonomic Society's 59th Annual Meeting 基礎心理学会第59回年次大会
公式ホームページ URL	http://www.psychonomic.org/page/2018annualmeeting
開催期間	2018年 11月 15日 ~ 2018年 11月 18日
旅行期間	2018年 11月 15日 ~ 2018年 11月 19日 ※申請時から旅行期間に変更がありました
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Hyatt Regency New Orleans, New Orleans, Louisiana, USA (アメリカ合衆国・ルイジアナ州ニューオーリンズ・ ハイアットリージェンシーニューオーリンズ)
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	柏原 志保・難波 修史・Russell S. Kabir・宮谷 真人・中尾 敬 (広島大学大学院教育学研究科)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Estimating parameters for false action memories in other-oriented observation inflation: Insights from a Bayesian multinomial processing tree approach. 観察による行為の虚記憶におけるパラメータの評価 ——ベイジアン MPT モデルによる検討—— ※申請時から題目に変更がありました
補助金額	100,000 円 (内訳 往復旅費・宿泊費 167,310 円の一部として) ※申請時から往復旅費・宿泊費の合計額に変更がありました

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、Psychonomic Society's 59th Annual Meeting (基礎心理学会第 59 回年次大会) へ参加するにあたり、国際会議等参加旅費補助金制度による助成をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。以下、会議の概要、申請者の研究発表および参加状況についてご報告申し上げます。

【会議の概要】

Psychonomic Society's 59th Annual Meeting (基礎心理学会第 59 回年次大会) は、2018 年 11 月 15 日から 18 日にかけてアメリカ合衆国ルイジアナ州ニューオーリンズにて開催された。本会議は Psychonomic Society が年に 1 回北米地域にて開催する国際会議であり、2,500 名以上の研究者が集った。会議期間中は、基礎心理学の各分野 (知覚, 記憶, 学習, 問題解決, 注意, 言語など) に関して、シンポジウム, 口頭発表, ポスター発表が行われた。

【申請者の研究発表】

申請者は、会議 3 日目である 11 月 17 日 18:00-19:30 のポスターセッション (Session V) で、「Estimating parameters for false action memories in other-oriented observation inflation: Insights from a Bayesian multinomial processing tree approach (邦訳: 観察による行為の虚記憶におけるパラメータの評価——ベイジアン MPT モデルによる検討——)」と題したポスター発表を行った。発表カテゴリは「False Memory II」であった。

本研究では、他者行為を観察することによって生じる行為の虚記憶である observation inflation (OI) 現象について、ベイジアン multinomial processing tree (MPT) モデルに基づき現象の生起を評価することを提案した。他者行為の観察を設けない統制条件との比較によって観察の影響を評価するという従来の OI 現象の算出方法と比べて、ベイジアン MPT モデルを適用することで、情報の喪失を防ぎ、推測過程なども考慮に入れたより豊かな指標の算出ができることが示唆された。発表に来てくださった方々からは、研究内容に関する質問を受けたり、本研究で適用したモデルの妥当性について議論したりした。

【会議への参加状況】

会議全体を通して 300 件を超える口頭発表と 1,000 件を超えるポスター発表とがあり、多くの興味深い最新の知見に触れたり、ディスカッションを行ったりすることができた。例えば、想像による運動システムの活性化に関する研究や、情報のソース判断時の指標としてマウストラッキングを活用した研究など、今後の自身の研究について示唆を得ることもでき、視野が広がった。また、申請者が研究している OI 現象は、国内での研究がほとんど行われておらず、海外の研究者との交流の中でより深いディスカッションを行えたことは非常に有益であったと言える。

本会議に参加したことで、最新の知見に触れたり、自身の研究発表に関して国際的な場で議論を行ったりすることができ、自身の研究を見直す良い機会となった。加えて、近接領域について研究している研究者と連絡先を交換するなど、研究の促進に繋がる新たなネットワークを築くという貴重な機会も得ることができた。

この度は、助成をいただき Psychonomic Society に参加できたことで、大変貴重な経験を得ることができました。この経験を活かし、今後の研究活動に精進してまいります。誠にありがとうございました。